

「広報博物館」で広報の歴史に触れる

2017年7月29日 伊吹 勇亮（京都産業大学）

日本広報学会の会員であれば、アイヴィー・リー（Ivy Lee）やエドワード・バーネイズ（Edward Bernays）という名前を一度は耳にしたことがあるだろう。両者とも「現代広報の父」と称される人物である。日本広報学会の設立10周年を記念して出版された『体系パブリック・リレーションズ』においても、彼ら2人の名前は広報の歴史に関する章で紹介されている。しかし、リーやバーネイズが実際にどのような活動を行っていたかを知っている人は、あるいは彼らの著作を読んだことのある人は、意外と少ないかもしれない。筆者は、今春、彼らの著作（原書）を目にする機会に恵まれた。その僥倖の場所こそが、今回紹介する「広報博物館」（The Museum of Public Relations）である。

「広報博物館」は1997年に設立され、広報の歴史に関する諸々を収集・保管・展示している。現在はニューヨーク市立大学バルーク校（Baruch College, City University of New York）にあるニューマン・ライブラリー内に拠点を構えている。アイヴィー・リーやエドワード・バーネイズをはじめ、広報という専門職能の立ち上げと発展に貢献してきた様々な人物について、業績の紹介を行い、また関連史料や著作の展示を行っている。昨年（2016年）『アイビー・リー ——世界初の広報PR業務』を上梓された河西仁氏も、博物館を訪れ情報を収集したことを述べておられるが、まさに広報史に関する一線級の史料が一堂に会している。

博物館は事前にアポイントをとれば誰でも見学ができる。学芸員による解説を依頼することも可能である。また、広報史に関するイベントを定期的で開催しており、それに参加することもできる。現代の広報がアメリカでどのように立ち上がってきたのかに興味をお持ちの方は、ぜひ一度訪れてほしい。また、ウェブサイトにある「PRのタイムライン」のコーナーでは有史以来のPRの歴史を画像とともに一挙に示すなど、オンラインでのコンテンツ展開も積極的に行っている。こちらもぜひ一度覗いてみてほしい。

「広報博物館」ウェブサイト：<http://www.prmuseum.org/>

「広報博物館」フェイスブックページ：<https://www.facebook.com/PRMuseum>



博物館の入口を入ったところ。



史料や書籍の展示とあわせ、20人規模のイベントを開催できるスペースにもなっている。



アイヴィー・リーが実際に使っていたアドレス帳をはじめ、貴重な史料も多く展示されている。ちなみに、河西氏の書籍の表紙はこの場所の写真を元にデザインされている。



書籍コーナーにはバーネイズの著書（初版本を含む）も多く展示されている。



筆者訪問時は黒人による広報の歴史についての特別展示を行っていた。



書籍以外の史料も含め 1000 点近い収蔵品を有している。

(写真はすべて筆者が撮影／訪問日：2017年3月27日)